

三重県青少年赤十字
賛助奉仕団委員長賞



森崎 琉偉
津市立久居中学校 3年

三重県青少年赤十字
指導者協議会長賞



浦狩 朋乃香
三重県立木本高等学校 2年

三重県支部長賞



林 大智
津市立明小学校 3年

親国善際



田畑 真央
明和町立明和中学校 2年

赤十字



中村 康佑
伊勢市立城田小学校 3年

博愛



城山 ほまれ
伊勢市立城田小学校 5年

優 秀 賞

●絵画の部

- 井ノ口 万葉 津市立高野尾小学校 2年
- 坂本 結音 松阪市立幸小学校 2年
- 田中 葵 津市立千里ヶ丘小学校 5年
- 櫻井 美仁 津市立成美小学校 5年
- 遠藤 道治 津市立栗真小学校 6年
- 北浦 朱莉 松阪市立三雲中学校 1年
- 藤原 遼生 松阪市立三雲中学校 1年
- 大仲 吟 松阪市立三雲中学校 2年
- 大櫻 優 セントジョゼフ女子学園中学校 2年
- 小河 胡実 セントジョゼフ女子学園中学校 2年
- 西村 野花 セントジョゼフ女子学園中学校 2年
- 杉本 晴香 セントジョゼフ女子学園中学校 2年
- 杉本 那奈 セントジョゼフ女子学園中学校 2年
- 安保 大地 松阪市立三雲中学校 3年
- 浦出 愛子 松阪市立三雲中学校 3年
- 金屋 汐音 津市立久居中学校 3年
- 宮本 彩加 津市立久居中学校 3年
- 朝倉 つむぎ 津市立久居中学校 3年
- 庄山 可純 津市立久居中学校 3年
- 野垣内 友紀 津市立久居中学校 3年
- 岡 亜寿美 津市立久居中学校 3年
- 吉尾 康一 津市立久居西中学校 3年
- 山川 薫 津市立久居西中学校 3年
- 山田 葉乃音 三重県立木本高等学校 1年
- 宮崎 あゆ梨 三重県立木本高等学校 1年
- 後久 里桜 三重県立久居農林高等学校 1年
- 大川 真愛 三重県立木本高等学校 2年

●書道の部

- 坂本 朱嶺 津市立安東小学校 3年
- 名張市立美旗小学校 3年
- 大仲 結心 津市立南が丘小学校 4年
- 桑田 咲歩 津市立南立誠小学校 4年
- 藤沢 ざりり 松阪市立大河内小学校 4年
- 水谷 あおい 暁小学校 4年
- 三宅 佐和 津市立養正小学校 4年
- 中西 永 津市立戸木小学校 4年
- 柳原 心晴 伊勢市立城田小学校 4年
- 真川 翠 津市立村主小学校 5年
- 一色 咲星 津市立豊津小学校 5年
- 木村 真子 津市立戸木小学校 5年
- 伊藤 さくら 津市立豊が丘小学校 5年
- 南谷 美結 伊勢市立城田小学校 5年
- 松田 怜奈 津市立戸木小学校 6年
- 小林 夢奈 伊勢市立城田小学校 6年
- 坪井 麗美伽 津市立豊が丘小学校 6年
- ファロンP 美穂奈 津市立養正小学校 6年
- 倉井 優 伊勢市立城田中学校 1年
- 坂口 結衣 伊勢市立城田中学校 2年
- 南谷 綾香 伊勢市立城田中学校 2年
- 水谷 奈緒 四日市市立富洲原中学校 2年
- 山本 珠緒 津市立久居中学校 2年
- 木下 奈々花 伊勢市立港中学校 3年
- 楠村 まゆ佳 松阪市立三雲中学校 3年
- 樋口 美月 四日市市立富洲原中学校 3年
- 内田 梨勢 四日市市立富洲原中学校 3年



令和元年（2019年）、日本赤十字社三重県支部が創立130周年を迎えました。10月19日に三重県総合文化センターの多目的ホールにおいて記念式典を行い、多数の皆様にご参加いただきました。

この記念事業の一環として、多くの子どもたちに赤十字への関心を高めていただくことを目的として、県内の小学生・中学生・高校生を対象に「絵画・書道」のコンクールを実施しました。

対象は、小学生、中学生、高校生を対象に、「赤十字」と聞いてイメージすることを自由に書いてもらいました。書

日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業
赤十字作品展「絵画・書道」コンクール



青少年赤十字

第26号

発行者 日本赤十字社
発行 三重県支部
令和二年三月

道は、小学3年生から6年生と中学生を対象に、小学校3・4年生は「人道」「平和」「赤十字」、小学校5・6年生は「博愛」「健康」「世界平和」、中学生は「奉仕活動」「国際親善」「災害救護」の中から選んで書いてもらいました。コンクールには、絵画145点、書道1,485点、合計1,630点の応募がありました。

応募作品は、三重県青少年赤十字指導者協議会と三重県青少年赤十字賛助奉仕団の皆様にご審査していただき、日本赤十字社三重県支部長賞、三重県青少年赤十字指導者協議会長賞、三重県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞の3賞を絵画・書道それぞれ各1点、優秀賞と副賞を授与しました。3賞に選ばれた6名の皆様は、記念式典で表彰式を行う予定です。

また、入賞した皆様の作品は赤十字作品展を開催して、三重県総合博物館 M i e m uにおいて10月19日から11月4日まで、伊勢赤十字病院において12月12日から令和2年1月9日まで、三重県赤十字血液センターにおいて令和2年1月15日から2月14日まで展示しました。

青少年赤十字研究会に参加して

日本赤十字社が毎年、各都道府県・市町村教育委員会の指導主事の皆様を招聘して実施している青少年赤十字研究会(文部科学省後援)が1月9日に本社で開催されました。三重県からは2名の先生にご参加いただきました。

津市教育委員会事務局
教育研究支援課指導主事
庭山 俊彦



1月9日（木）に日本赤十字社本社で行われた令和元年度青少年赤十字研究会に参加させていただきました。私自身これまで、JRCという言葉を聞くことが多かった。今回、本研究会に参加するにあたって、事前にいただいた資料に目を通し、学校教育との関連について、興味を持って臨むことができました。

実際に参加して、印象に残ったことは、青少年赤十字の目的や、活動内容などについてわかりませんが、今後、学校現場に伝えていきたいことは、文部科学省初等中等教育局視学官の青木隆先生の講演「学校教育と青少年赤十字」から学ばせたい内容です。特に、来年度から順次全面実施される新学習指導要領との関連について

三重県教育委員会事務局
小中学校教育課指導主事
高橋 正寛



青少年赤十字が学校教育の中で展開している活動には、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に地域社会や世界のために奉仕するなど、世界の人人との友好親善の精神を育成することを目的としている様々なものがあります。

令和2年1月9日（木）に行われた青少年赤十字研究会では「気づき」「考え」「実行する」という青少年赤十字の態度目標を確認し、各校種の実践事例の紹介を通して、現在の学校教育における青少年赤十字の現状と成果や、これからの取組等について学びました。特に、新学習指導要領との関連や、具体的な実践事例等の活用についての説明では、これからの教育において大切なことを改めて認識することができました。また、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち」のちろめるぼうさい」の実践事例についての報告

て、例示しながらわかりやすく教えていただきました。青少年赤十字の実践目標である「健康安全」「奉仕」「国際理解」「親善」が、新学習指導要領の総則に記載されている「学校における食の推進並びに体力の向上、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進」「国際社会に生きる日本人としての自覚」「生命を尊重する心」「ボランティア活動」等に合致している部分が多いということに気づきました。また、態度目標である「気づき」「考え」「実行する」が、思考力・判断力・表現力等の育成に通じるものがあるということも新しい知見になりました。

他にも、取組を紹介していた他市町の校長先生方をはじめ、参加者の方々と交流も、有意義な時間を過ごすことができました。今回の研究会で学ばせていただいたことを、自分の言葉で学校現場に伝えていきたいと思っています。今回このような機会を与えていただいた日本赤十字社及び三重県支部の皆様へ感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

では、「子どもの命を救うのは、防災教育しかない」という言葉が印象に残りました。ここで活用される防災教材は、東日本大震災の被災者でもある日本赤十字社の担当者の思いが込められたものです。本教材は一つひとつ短くまとめられた映像を活用しながら学習を進めることで、子どもたちに正しい知識と行動力を身に付けさせ、命の大切さを学ぶことができるものとなっています。私も実際にこの教材を使って授業をしたことがありますが、作成者の思いを深く理解しないまま教材を使用していたことを反省させられました。これまでの勤務校でも、青少年赤十字に関わる活動があったことは知っていましたが、今回の研究会に参加することで、さらに多くのことを知ることができました。今後、子どもたちが直面する新しい時代に向けて、今回学んだ内容が学校現場に広がっていくことを期待することにも、自ら広めていくことの必要性を感じているところです。このような機会を与えていただきました日本赤十字社及び三重県支部の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



有功会から幼稚園と保育園に絵本が贈られました。

日本赤十字社三重県支部有功会から三重県青少年赤十字に加盟している幼稚園と保育園に絵本が贈られました。日本赤十字社三重県支部で贈呈式が行われ、伊藤歳恭会長（百五銀行頭取）より三重県青少年赤十字指導者協議会理事の正田まゆみ先生に贈呈されました。贈呈された絵本は「ぼくが赤ちゃんだったとき」という本です。人間の命を守るという赤十字の使命をわかりやすく伝えることができる絵本として選定されました。未来を支える子どもたちが赤十字の使命に気づき、赤十字の輪を広げてくれることを期待しています。



有功会とは、日本赤十字社三重県支部の赤十字事業及び活動資金に協力し、赤十字の「人道・博愛」精神の普及とその事業に奉仕すると共に、会員相互の親睦を図ることを目的とした団体で、現在126名の会の会員で組織されています。

絵画・書道コンクール ご応募いただいた学校

- | | | | | | |
|---|---|---|--|--|---|
| 伊賀市立神戸小学校
伊勢市立城田小学校
伊勢市立二見浦小学校
伊勢市立御園小学校
伊勢市立小俣小学校
亀山市立白川小学校
紀北町立赤羽小学校
熊野市立木本小学校
桑名市立大山田北小学校
桑名市立日進小学校
志摩市立磯部小学校
志摩市立大王小学校
暁小学校
鈴鹿市立飯野小学校
多気町立佐奈小学校 | 玉城町立有田小学校
玉城町立外城田小学校
津市立高野尾小学校
津市立新町小学校
津市立芸濃小学校
津市立南が丘小学校
津市立豊が丘小学校
津市立一身田小学校
津市立明合小学校
津市立美杉小学校
津市立栗真小学校
津市立千里ヶ丘小学校
津市立育生小学校
津市立豊津小学校 | 津市立修成小学校
津市立南立誠小学校
津市立戸木小学校
津市立養正小学校
津市立成美小学校
津市立明小学校
津市立八ツ山小学校
津市立安東小学校
津市立村主小学校
津市立北立誠小学校
津市立白塚小学校
津市立優小学校
東員町立笹尾東小学校
鳥羽市立菅島小学校
名張市立美旗小学校 | 名張市立桔梗が丘南小学校
松阪市立中原小学校
松阪市立第一小学校
松阪市立大河内小学校
松阪市立山室山小学校
松阪市立朝見小学校
松阪市立幸小学校
松阪市立豊田小学校
明和町立下御糸小学校
四日市市立塩浜小学校
伊勢市立城田中学校
伊勢市立宮川中学校
伊勢市立港中学校
いなべ市立藤原中学校
岐阜県岐南町立岐南中学校 | 紀北町立紀北中学校
桑名市立成徳中学校
志摩市立磯部中学校
志摩市立志摩中学校
セントジョゼフ女子学園中学校
高田中学校
津市立久居西中学校
津市立橋南中学校
津市立南が丘中学校
津市立白山中学校
津市立南郊中学校
津市立久居中学校
津市立一身田中学校
津市立豊里中学校 | 鳥羽市立鳥羽東中学校
鳥羽市立加茂中学校
松阪市立三雲中学校
松阪市立東部中学校
明和町立明和中学校
四日市市立塩浜中学校
四日市市立富洲原中学校
四日市市立橋北中学校
高田高等学校
三重県立木本高等学校
三重県立久居農林高等学校 |
|---|---|---|--|--|---|

津市立南郊中学校へ天幕を贈呈

日本赤十字社三重県支部では、夏季に開催している青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（トレセン）に継続的に参加するなど青少年赤十字活動に取り組んでいる小・中学校を対象に天幕を贈呈しています。令和元年度は津市立南郊中学校へ贈呈しました。南郊中学校は、トレセンや中学校連絡協議会に長年にわたって参加いただくとともに、学校主催でトレセンを開催するなど、青少年赤十字活動に積極的に取り組んでいます。引き続き青少年赤十字の活動を推進していただきますよう期待しています。

編集後記

1995年1月17日、午前5時46分、淡路島北部を震源地として、マグニチュード7.3の地震が発生し、国内史上初の震度7が観測されました。関連死を含めた死者が6,434人、負傷者のうち重症は約1万人、住宅被害のうち全壊が約10万棟、焼損した家屋のうち全焼が約7千棟にのぼり、水道・ガスなどのライフラインが切断され、港湾施設などの産業基盤や生活基盤の施設が打撃を受け未曾有の被害が出ました。大震災から今年で25年が経ち、令和となった1月17日にも、各地で追悼行事や避難訓練、講演会などが行われ、震災の記憶と教訓を繋いでいく1日となりました。

そして、3月11日には、日本国内観測史上最大規模の地震によって、未曾有の甚大な被害を出した東日本大震災から9年を迎えました。政府主催の追悼式は中止となりましたが、追悼の思いと、あの日のことを伝え、復興に取り組み活動が今も続けられています。

こうした大震災の教訓を生かして、全国各地で、災害に強いまちづくり・人づくりを目指した取組が進められています。日本赤十字社では、自らの命を守る行動ができる子どもたちを育てよう、幼稚園・保育園の園児、小学生・中学生・高校生を対象とした防災教育プログラムを作成して活用を進めています。

青少年赤十字の態度目標は、「気づき・考え・実行する」です。危険を予測する「元気の力」を養い、自分や他の人の命を守るために、自分のすべきことに「気づき」、そのためにどうすべきかを「考え」、命を守る行動を「実行する」ことができる子ども達を育てていきたいと考えています。将来のある子ども達をみんなで見守り、育てていきたいと思います。

令和元年10月26日(土)

令和元年度三重県青少年赤十字中学校連絡協議会

—ネパールの方々との交流—

毎年、加盟校の活動交流と国際交流を行っている「三重県青少年赤十字中学校連絡協議会」。ネパール人学生を招いて、6校21名の生徒たちが直にネパールの文化に触れ、学んだ成果を発表。異文化との交流を通じてさまざまな気づきを得られる時間となりました。



熱のこもった時間にも
過ごした貴重な体験に



真剣な面持ちで
異国の文化を吸収



食文化や観光資源、
国旗の意味など、さ
まざまなネパール文
化の特色の説明を
受けました。



生徒たちは言葉を使わずにコミュ
ニケーションを取る方法を事前に体
験し、異文化との交流を疑似体験。

交流タイム

ネパール文化の特
徴に耳を傾ける生
徒たち。最初は緊
張気味の面持ち
でした。



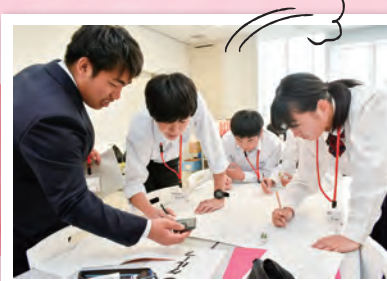
初めて接するネパールの文化に興
味津々の生徒たち。知識の扉が開
かれていきます。

中学校連絡協議会に参加して

三重大学附属中学校 3年 福田 泰樹

私が今回の交流で感じたことは、日本とネパールとの間に意外と多くの共通点があるということです。私は日本とネパールは遠く離れていて言葉や文化など様々な違いが多くあると思っていました。しかし、実際に交流の中で話をしてみると、案外そうでもないのではないかと思えてきました。簡単な例をあげるなら、ネパールには日本と同じような食べ物があったり、日本と同じように山地面積が大きいということなどです。共通点の中で私が一番驚いたのは、ネパールにも仏教を信仰している人がいて、寺院も多くあるということでした。日本人とネパールの間には違いが多いと思っていたけど、そうではなく、共通すること多い。これは日本人とネパール人との間にだけ言えることではなく、他でも言えると思いました。今回の交流でわかったように、違いばかりを見るのではなく、おたがいの共通点を探していこうと思いました。

『中学校連絡協議会』に参加した6校
津市立橋南中学校、三重大学教育学部附属中学校、
津市立南が丘中学校、津市立西橋内中学校、
津市立橋北中学校、津市立南郊中学校



ラストスパート

発表物の作成に
熱心に取り組む生
徒たち。初めて触
れる知識に好奇心
が刺激されます。

発表を終えて

無事に発表が終
わってホッとひと
息。熱心に教えて
くれたことに感謝
の気持ちを表現。

発表タイム

特徴的な国旗デ
ザインや食文化、
日本との共通点
の多さなどに興味
をひかれました。

JRC態度目標

気づき
考え
実行する



ネパール人学生たちと対面する前に、言葉を使わずに自分の名前を相手に伝える演習を体験。その後、ランダムに振り分けられたグループごとにネパール人学生から文化の特色を学びながら、発表内容を作成しました。最初は少し緊張気味だった生徒たちも徐々に打ち解けていって、次第に笑みが浮かぶようになり、午後からはいっそう熱を帯び、時間ギリギリまで真剣な面持ちで仕上げ、各グループごとに発表。その様子を微笑ましくに見つめるネパールの方々の表情も印象的でした。生徒たちからは「外国の人に日本を知ってもらう機会があっても、自ら相手の国のことを積極的に知る機会はないという貴重な経験になりました」という声も聞かれました。

「日本赤十字社展—赤十字 人道の軌跡—」見学



赤十字事業の創始者アンリー・デュナンを描いた東郷青児作「ソルフェリーノの啓示」も展示。赤十字の原点が伝わってきます。



日本赤十字社三重県支部創立130周年記念事業として歴史的な資料や絵画等を展示。赤十字の使命である「人道」への想いに触れました。

高校生

令和元年10月27日(日)

令和元年度青少年赤十字のつどい



「どうすればこんなカタチに
なるの!」笑顔が弾けます

バルーンアート

本木高校

楽しく交流しながら、さまざまな形のバルーンアートが次々と生み出されていました。



パフォーマンス

白子高校

血回しやジャグリング、エイドリグなどのパフォーマンスに生徒たちは興味津々。



紀南高校



四日市四郷高校



木本高校



クイズ

日本赤十字社の前身「博愛社」誕生のきっかけなど、さまざまな問題が出題されました。



事業報告

福島県メンバーとの交流や被災地の視察を報告。真剣な面持ちで耳を傾けていました。



合唱

「青少年赤十字の歌」と「パプリカ」を全員で斉唱。一体感が育まれる時間となりました。



東紀州くろしお学園



白子高校



久居農林高校



高田高校



飯野高校

